

相原尚之（比較病理学）、上家潤一（獣医病理学）、志賀崇徳（獣医病理学）、
峰重隆幸（診断病理学）、片平浩孝（環境生物学）、坂西梓里（寄生虫疫学）

研究の背景

ヒトや飼育動物の生活環境のすぐ近くには、ネズミや虫、ダニなど、ヒトの健康に影響を及ぼす衛生動物が生息しています。これらの生物は、ヒトや飼育動物と同じ生活空間に存在することから、ある種の共生関係にあると捉えることができ、同様の環境因子にさらされていると考えられます。そこで本研究では、農場、住宅街、繁華街といった異なる環境に生息する衛生動物の病変を比較することにより、各環境の生活リスクを明らかにできるのではないかと考えました。さらにこの考えを発展させると、ヒトや動物の生活環境は、様々な水性・土壌動物にも影響を及ぼしている可能性があります。これらの生物は、水・土壌を豊かにし、持続可能な生態系の維持に貢献していることから、その消化器官や生殖器官に対する環境の影響を評価することで、持続可能な環境条件を明らかにすることができると考えています。

アプローチ

農場、住宅街、繁華街などで捕獲された衛生動物などを解剖し、その臓器を肉眼的に検査します。臓器から顕微鏡検査用の標本を作製、観察を行います。

それぞれの場所ごとに好発する病変を明らかにし、その病変を誘発する環境因子を明らかにします。病変の解釈は、微生物学的、寄生虫学的、化学的な検査結果と総合的にを行います。

期待される結果

ヒトや動物の健康に影響を与える環境因子を明らかにし、その改善に役立てる研究を目標とします。

衛生動物を同じ環境に住む動物ととらえ、ヒトや飼育動物の住環境の改善のために役立てる新たな研究アプローチです。

肉眼病理学的、組織形態学的、比較病理学的な知識と技術を身に付け、自分で考える力を養います。

募集方法

学科を問わず、2～3名を募集します。

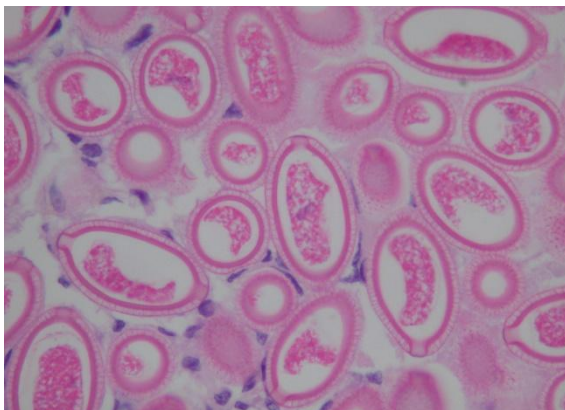
主体性をもって活動に取り組むことができる学生を希望します。プロジェクトを共に行う学生や教員とのコミュニケーションを取り、協調して研究に取り組むことを希望します。



ネズミはヒトのごく身近なところに住む動物です。最近コンビニや飲食店でのネズミ出没がニュースになりました。



肉眼的に病変を確認します。これは肝臓の寄生虫病変です。



病変を顕微鏡で検査することで、その病変の性質を明らかにします。特徴的な虫卵の形態から肝毛頭虫（*Capillaria hepatica*）寄生と診断しました。